

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月22日現在

機関番号：22604

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820040

研究課題名（和文） 地域許容力と利用潜在力に基づく適正収容力算出システムの構築

研究課題名（英文） Construction of carrying capacity calculation system based on the regional acceptance potential and use potential

研究代表者

有馬 貴之 (Takayuki Arima)

首都大学東京・都市環境科学研究科・助教

研究者番号：00610966

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果は、小笠原諸島および新島・式根島の観光に関わる文献や資料を収集し、適正収容力の算出に関わる一連の観光状況を把握し、分析に取りかけられたことであった。小笠原諸島では多くの報告書や論文等が存在するが、それらの資料の継続性はほとんどなかった。つまり、算出上必要なモニタリングの報告や、研究の引き継ぎ等は限られていた。一方、サーフィンの盛んな新島では、文献や資料の多くが社会学的な報告にとどまり、こちらも観光の状況を継続的にモニタリング等されているものはみられなかった。

本研究の究極的な目的はそれぞれの事例を用いて、適正収容力の算出を行うことであった。本研究ではその目的に対する資料の収集や目処を立てることができたが、分析は未だ途中であり、完全には終了しなかった。そのため、今後は分析等を継続していく。

研究成果の概要（英文）：

The one of the results of this research was to understand the situation of tourism by collecting the materials and documents related to the tourism of Ogasawara Islands and Niijima Island and Shikinejima Island. Papers and reports for calculating the carrying capacity are founded many at the sites, but there was little continuity of the materials for them. In other words, reporting and monitoring necessary for the calculation and takeover of the study was limited.

The ultimate goal of the research is creating the system of calculation of carrying capacity using at the tourism sites. It can be possible to make a prospect by collection of data in the present study in the research. However, the analysis is still in the middle, was not fully completed. Therefore, the analysis will be continued in the near future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,215,379	390,000	1,605,379
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,315,379	720,000	3,035,379

研究分野： 人文地理学

科研費の分科・細目： 人文地理学・人文地理学

キーワード： 観光、エコツーリズム、適正収容力、小笠原、新島

1. 研究開始当初の背景

本研究は近年盛んになってきたエコツーリズムを取り上げ、観光客の流入によって自然環境がどの程度破壊されるのかを調べるものであった。また、それに対して、対応策を作成するための指標となるような適正収容力（観光客数の制限人数）を設定し、かつその設定のフレームワーク（手順）を構築することを目標としていた。また、それは社会的にも必要とされていた事項であった。

2. 研究の目的

本研究の究極的な目的は、適正収容力の算出フレームを構築することであった。また、それが自然環境や観光客の属性が異なる地区であっても摘要可能なフレームとすることで、事例となる地域以外にも役の立つものにするのを念頭に置いていた。さらには、その構築によって、共通した基準において自然観光地を比較する事ができ、それは地理学の学問的な発展にも寄与するものであると考えられた。

3. 研究の方法

本研究の手順は①これまでの適正収容力に関する議論と研究の総括、②フレーム構築に向けた適正な事例地の選択、③事例地における資料・文献等の収集、④資料・文献等を基にした分析の4段階で実施する予定であった。2年間の計画においては1年目に①から③まで、2年目に④を行う予定であった。また、適宜、学会発表や論文の投稿を行う予定であった。

4. 研究成果

本研究の成果は、小笠原諸島および新島・式根島の観光に関わる文献や資料を収集し、適正収容力の算出に関わる一連の観光状況を把握し、分析に取りかかれたことであった。小笠原諸島では多くの報告書や論文等が存在するが、それらの資料の継続性はほとんどなかった。一方、サーフィンの盛んな新島では、文献や資料の多くが社会学的な報告にとどまり、こちらも観光の状況を継続的にモニタリング等されているものはみられなかった。

本研究の究極的な目的に対する資料の収集や目処を立てることができたが、分析は完全には終了しなかった。上記の研究手法（手順）でみると、③までは終了したが④の途中で終

わってしまった状況である。そのため、今後とも分析等を継続していく。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- (1) 伊藤修平・青野由季・佐藤由佳・横手麻衣子・有馬貴之・菊地俊夫 2013. 箱根・宮ノ下における外国人観光客の受け入れ態勢の現状. 観光科学研究. 査読有. 6: 183-188.
- (2) 河東宗平・雨宮尚弘・梶山桃子・川嶋裕子・塩川さところ・有馬貴之・菊地俊夫 2013. 箱根・強羅における外国人観光客の受け入れ態勢の現状. 観光科学研究. 査読有. 6: 189-194.
- (3) 山本大地・小林茉莉奈・中塚典孝・前澤由佳・有馬貴之・菊地俊夫 2013. 箱根町箱根における外国人観光客の受け入れ態勢の現状. 観光科学研究. 査読有. 6: 195-200.
- (4) 菊地俊夫・有馬貴之・黒沼吉弘 2012. 小笠原諸島の観光と自然資源の適正利用—南島の事例を中心に—. ペドロジスト. 査読有. 56: 101-108.
- (5) Arima, T. 2012. Self-imposed management in the Ogasawara Islands and their academic capital against world heritage. *Transforming and Managing Destinations: Tourism and Leisure in a Time of Global Change and Risks* 2012. 査読無. 63-72.
- (6) 有馬貴之・菊地俊夫・新井風音・大野一・桜澤明樹・真田 風・戸川奈美・中島一優・長谷川晃一・山口ともみ・山田将彰 2012. 長野県安曇野市におけるメディアの効果と地域の再編—NHK連続テレビ小説『おひさま』がもたらすもの. 観光科学研究. 査読有. 5: 1-14.
- (7) 菊地俊夫・有馬貴之 2011. オーストラリアにおけるジオツーリズムの諸相と地域振興への貢献. 地学雑誌. 査読有. 120: 743-760.

〔学会発表〕（計15件）

- (1) 有馬貴之 2013. 2001年以降の研究動向

- からみた観光地理学への視座. 2013 年日本地理学会春季学術大会、3 月 28 日、熊谷
- (2) 有馬貴之 2013. 大地の遺産百選とその選定作業—アンケート調査 (第 1 回) の結果を踏まえて. 2013 年日本地理学会春季学術大会、3 月 28 日、熊谷
 - (3) 有馬貴之 2013. 2000 年以降における観光地理学の動向. 進化経済学会観光学研究部会第 17 回研究会、3 月 15 日、八王子
 - (4) Kawahara, S., Numata, S., Okamura, Y., Kikuchi, T., Shimizu, T., Naoi, T., Kurata, Y., Arima, T., Ikazaki, K. Hompo, Y. Azuma, H. and Kosaki, T. 2012. The project-based learning program in the department of nature- and culture-based tourism, faculty of urban environmental sciences, Tokyo Metropolitan University. The International Symposium on Sustainable Urban Environment 2012, 3rd November, Hachioji.
 - (5) Morimoto, A., Aono, Y., Ohashi, K., Ogawa, M., Shin, N., Nakadate, S., Yaoi, R., Yamamoto, D., Koike, T., Ikeda, T. Arima, T., Naoi, T. and Kawahara, S. 2012. Finding tourism resources in middle- watershed area of Shakuji river: Survey in Nerima ward in Tokyo. The International Symposium on Sustainable Urban Environment 2012, 3rd November, Hachioji.
 - (6) 有馬貴之 2012. シンポジウム ジオパークに生じた諸問題—持続可能なシステムの構築に向けて<趣旨説明>. 2012 年日本地理学会秋季学術大会、10 月 2 日、神戸.
 - (7) Arima, T. 2012. Toward new management framework for the place impacted by tourism activities. 32nd International Geographical Congress Cologne 2012, 22nd August, Cologne (Germany).
 - (8) Arima, T. 2012. Self-imposed management in the Ogasawara Islands and their academic capital against world heritage. International Geographical Union Pre-Conference Symposium Transforming and Managing Destinations: Tourism and Leisure in a Time of Global Change and Risks, 16th August, Trier (Germany).
 - (9) 菊地俊夫・有馬貴之・黒沼吉弘 2012. 小笠原の観光と資源の適正利用. 日本ペドロジー学会 2012 年度大会、3 月 8 日、八王子.
 - (10) 有馬貴之 2012. 観光地理学の視点と大地の遺産百選. 2012 年日本地理学会春季学術大会、3 月 28 日、八王子.
 - (11) 菊地俊夫・吉田 樹・有馬貴之・飯塚 遼. 2012. 江戸から近未来への「街歩き観光」の諸相をあるく、みる、きく—スカイツリーと新しい下町観光 (巡検案内), 2012 年日本地理学会春季学術大会、3 月 30 日、東京.
 - (12) 菊地俊夫・有馬貴之・Kevin, Markwell 2012. オーストラリアのジオツーリズムとエコツーリズム (巡検案内). 東京地学協会、2 月 15 日、ケアンズ(オーストラリア).
 - (13) 有馬貴之 2012. 東京都の緑地保護政策と観光レクリエーションの関係—観光地理学に必要な視点. 日本観光研究学会分科会「観光学における地域科学の貢献可能性—環境倫理学との対話から考える」, 1 月 15 日、富山.
 - (14) Arima, T., Kikuchi, T. and Kuronuma Y. 2011. Communal management with self imposed rules on Minami-jima Island in Ogasawara Islands, Japan. ISSUE 2011, 3rd October, Hachioji.
 - (15) 川瀬純也・岡野雄気・神田八枝・窪村麻里子・小池拓矢・真栄田晃・有馬貴之・倉田陽平・矢部直人 2011. GPSを用いた来園者行動調査とその課題—多摩動物公園での調査から—. 第 8 回観光情報学会全国大会、6 月 10 日、札幌.
- [図書] (計 2 件)
- (1) Arima, T., Kikuchi, T. and Kuronuma, Y. 2013. Communal Management of Ecotourism Based on Use of Common Pool Resources: Self Imposed Rules on Minami-jima Island, Japan. In *Handbook of Tourism Economics: Analysis New Applications and Case Studies*, World Scientific Publications: 875-900.
 - (2) 伊藤修一・有馬貴之・駒木伸比古・林 琢也・鈴木晃志郎編著 2012. 『役に立つ地理学』古今書院. 162pp.
- [その他]
首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース:

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/>
小笠原観光研究:
<http://ogasawara-tourism-research.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有馬貴之 (Takayuki Arima)
首都大学東京・都市環境科学研究科・助教
研究者番号: 00610966

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし